

2020年度 看護部のご案内



一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団
潤和会記念病院
JUNWAKAI MEMORIAL HOSPITAL

潤和会記念病院及び看護部概要

施設概要

1. 特徴

脳血管障害、脊椎脊髄外科疾患、骨関節系疾患、外傷等の救急患者に対する高度医療を提供すると共に療養病床を併せ持つケアミックス型の病院である。従来から神経疾患のリハビリテーションを中心に県内の地域リハビリテーションの中核を担いながら、宮崎リハビリテーション学院の併設医療機関としてリハビリテーション医療従事者育成の一役を担っている。平成20年4月に「がん治療センター」を開設。外科手術・内視鏡手術・化学療法に加え、放射線治療装置トリロジーによるがんの集学的治療を開始した。平成23年4月「脳神経センター」を新設した。平成24年公益財団法人日本医療病院機能評価機構の認定基準Ver.6.0を達成し、認定病院の更新をおこなった。平成26年3月緩和ケア病棟24床を開設し、平成26年10月地域包括ケア病棟、平成31年3月脳卒中ケアユニットを開設した。

2. 病院種別 ケアミックス型病院(一般病床・療養病床)



3. 病床数 446床

一般病床 297床(ICU6床、SCU6床、急性期152床、地域包括ケア52床、緩和ケア24床)

回復期リハビリテーション病床 57床)

療養病床 149床(療養病床47床、回復期リハビリテーション病床 102床)

4. 診療科目 内科、神経内科、糖尿病・代謝内科、消化器内科、内視鏡内科、外科、消化器外科、肛門外科、腫瘍外科、乳線外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、麻酔科、ペインクリニック内科、放射線診断科、ペインクリニック外科、放射線治療科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、眼科、病理診断科、精神科

5. 看護体制

急性期病棟 看護配置 7対1 25対1看護補助

緩和ケア病棟 看護配置 7対1

地域包括ケア病棟 看護配置13対1 25対1看護補助

回復期リハビリテーション病棟.....看護配置 13対1 30対1看護補助

医療療養病棟 看護配置 20対1 20対1看護補助

ICU 看護配置 常時2対1(特定集中治療室管理料3)

SCU 看護配置 常時3対1(脳卒中ケアユニット入院管理料)

6. 勤務体制

急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟変則2交代制(短夜勤 長日勤 日勤)

7. 看護方式:

全ての看護単位:パートナーシップ・ナーシング・システム+機能別看護





潤和リハビリテーション振興財団 理念

「リハビリテーションを究め、実践し、普及する」



潤和会記念病院の理念

「人間愛」



看護部の理念

私たちは、患者さん一人ひとりに満足していただける
心のこもった看護を提供します

潤和会記念病院看護部基本方針



1. 私たちは、患者さんの安心と信頼を得るため、適切で安全な看護を提供します。
2. 私たちは、命の尊厳および権利を尊重し、患者さんの個性を重視した看護を提供します。
3. 私たちは、可能な限り高い水準の看護を提供するために、専門職として自己研鑽に努めます。
4. 私たちは、地域との連携を緊密にし、看護を通して地域に貢献していきます。
5. 私たちは、他の専門職と協働し、働き甲斐のある、活力ある職場環境を作ります。
6. 私たちは、社会の変化に柔軟に対応し、組織の発展と健全な経営に参画します。

《潤和会記念病院看護部教育方針》

平成27年3月31日
看護部 教育研修ナース部会

教育目的

○質の高い看護が提供できる看護職を育成する

○感性豊かな看護職を育成する

教育目標

- ・専門的知識と確かな技術で、安全で信頼される看護が提供できる
- ・患者の尊厳と権利を尊重し、倫理に基づいた看護実践ができる
- ・看護専門職として主体的な学習が継続できる
- ・看護の質の向上を目指して、研究的な視点をもつことができる
- ・感性を高め、人間性豊かな看護職をめざす

凜とした看護師を育てます

基本に忠実で
豊かな感性をもち
自立・自律した看護師

マネジメントラダー

質の高い看護が提供
できる看護職

看護実践能力

知識 技術
自己啓発力・研究的視点

感性豊かな看護職

倫理観(看護観・死生観)

社会人基礎力

レベルⅤ
レベルⅣ
レベルⅢ
レベルⅡ
レベルⅠ

クリニカルラダー

看護部理念
看護部基本方針

教育体系図

平成30年11月1日
看護部 教育研修ナース部会

看護管理者
マネジメントリーダー

スペシャリスト
専門・認定看護師

ジェネラリスト

レベルV

より複雑な状況において、ケアの受け手
にとっての最適な手段を選択しQOLを高め
る為の看護を実践する

単独で専門領域や高度な看護
技術等についての自己教育活
動を展開することができる。看護
単位における教育的役割がとれ
る

レベルIV

幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実
践する

自己のキャリア開発に関して目
指す方向に主体的な研究に取り
組み、後輩のロールモデルとな
ることができる

レベルIII

ケアの受け手に合う個別的な看護を実
践する

自己の学習活動に積極的に取
り組むとともに、新人や看護学
生に対する指導的な役割を実
践することができる

レベルII

標準的な看護計画に基づき自立して看護を
実践する

自己の課題を明確化し、達成に
向けた学習活動を展開するこ
とができる

レベルI

基本的な看護手順に従い必要に応じて助
言を得て看護を実践する

自己の課題を指導によって発見
し、自主的な学習に取り組むこ
とができる

所属を超え、看護部や病院から求め
られる役割を遂行できる。看護単位
の課題に対し具体的解決を図れる

所属する職場で、特殊なまたは専門
的な能力を必要とされる役割、または
指導的役割(学生指導、教育・業務・
リスク係)を遂行できる。看護単位の
課題の明確化ができる

所属する職場で、組織的役割が遂行
できる。看護チームではチームリー
ダーやコーディネーターの役割、病棟
での係としては、創造的能力を要求さ
れる係の役割を遂行できる

組織の一員としての役割が理解でき
部署の目標達成に向けて基準や手
順を順守した行動がとれる。日々の
看護業務においてリーダーシップがと
れる

責任の最も軽い、難易度の最も低い
軽微な組織の役割を果たす。看護チ
ームではフォロアーやチームメンバ
ーの役割、病棟の係としては簡単なル
ーチンの係の役割を遂行できる

**組織的
役割遂行
能力**

看護実践能力

ニーズをとらえる力

意思決定を支える力

ケアする力

協働する力

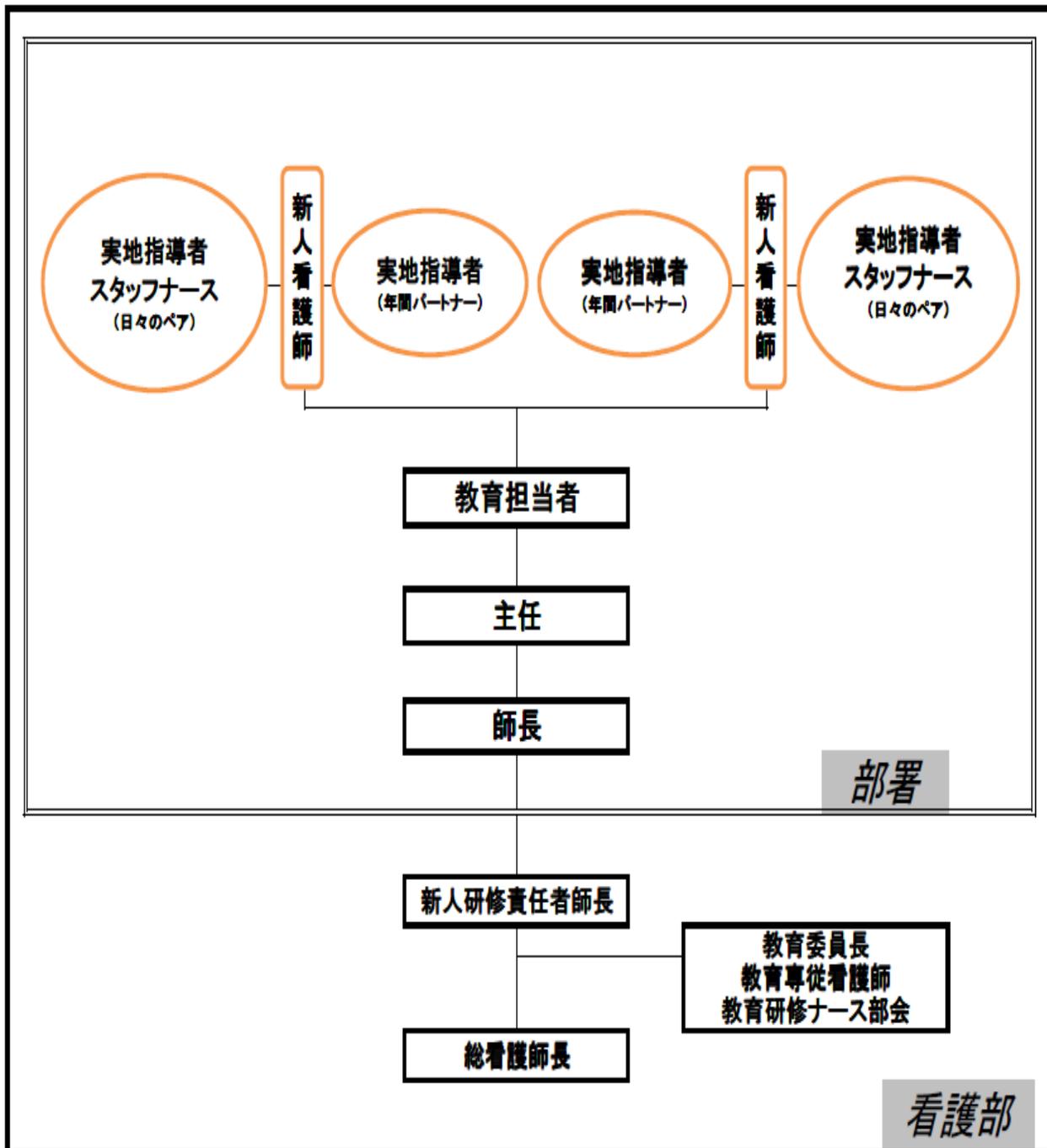
**自己教育
研究能力**

社会人基礎力・豊かな感性・倫理観(看護観・死生観)

新人看護師の指導体制

○新人看護師の指導体制

屋根瓦式の教育（multi-edcation）体制で、すべての看護師が“自分が関わり、新人看護師を育てる”という意味をもち指導を行う。





新人教育プログラム



4月

入職時オリエンテーション
基礎看護技術演習
医療安全・感染管理
看護倫理・看護記録
口腔ケア・看護必要度
接遇研修
リハビリテーション研修

3月

12か月フォローアップ研修

*次年度入職前研修
(電子カルテ操作
ナースのためのマナー講座)

2月

事故分析
危険予知トレーニング

1月

12月

5月

11か月フォローアップ研修
糖尿病の治療と看護
劇薬毒薬の取り扱い
院外研修

6月

輸血と麻薬の取り扱い
フィジカルアセスメント

7月

3か月フォローアップ研修
救急救命処置技術

11月

2020年度新入職看護師

8月

口腔ケア

10月

ケアプロセスチェック

9月

6か月
フォローアップ
研修
多重課題

ナースの1日



8:30
申し送り



6:00
モーニングケア



9:00
患者さんに
あいさつ



師長とリーダーとのラウンド



夜間
巡視



10:00
ベッドサイドケア

20:00
夜勤者へ
申し送り



看護学生からの報告

20:00
イブニング
ケア



外科回診



パートナーとの
情報交換

12:00
食事介助



18:00
食事介助



カンファレンス



8名の専門・認定看護師が活躍中！！



がん看護専門看護師

小柳 優美子



当院には、特定分野で知識や技術を高めた専門看護師・認定看護師が看護ケアの質の向上のため活躍しています。

現在2人に1人はがんに罹患するといわれています。しかし、がんの告知をされた方は戸惑い日常生活が困難な状況となります。また、がんの告知後から治療期・終末期の段階まで多くの意志決定を余儀なくされます。その中で、ご本人はじめご家族含めて、その人らしく生活していくことできるように、寄り添いながら、ともに考えていきたいと思えます。

感染管理認定看護師

永迫 望



感染管理認定看護師は、医療施設を利用する患者さん・ご家族訪問者・現場で働くすべての人々を感染源から守ることが主な役割となります。患者さんへ安全な療養生活が送れるよう、スタッフには安心して働ける職場環境になることを目指し、毎日頑張っています。

富山 里美



感染管理認定看護師は、患者様を守るのはもちろん、患者様の家族、面会者の方、病院で働く職員、学生など、病院に関わる人すべてを対象に感染管理を行っています。

感染は細菌やウイルスなど眼に見えない敵との戦いです。その敵を封じ込めるために職員へ指導を行い病院全体で協力して感染防止に努められるよう、日々努力しています。

皮膚・排泄ケア認定看護師

松原 薫



私は、褥瘡や創傷のケア・ストーマケア・排泄ケアと、皮膚と排泄について関わっています。褥瘡や創傷は、治癒を目指すとともに、日常行っているスキンケアや体位についても一緒に考えています。また、ストーマケア・排泄ケアに関しては、多くの悩みを持つ方々の不安を少しでも分かち合えるように、話をうかがいながら、一緒にケアを行います。また、患者さんに合わせたケア方法について、仕事や趣味を考慮しながら考え、今までの日常に近づけるようにすることが大切だと思っています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師



佐伯 亜里沙



脳卒中を発症した急性期では、神経症状と全身状態を観察し、重篤化回避につとめております。また、安全を確認しながら早期離床に取り組み、他職種と協力して生活の再構築に向けた日常生活動作を支援してまいります。脳卒中発症・再発予防についても一緒に考え、その方らしい生活が送れるようお手伝いのできたらと思っております。

摂食嚥下看護認定看護師

濱砂 昭子



飲んだり、食べたりすることが難しくなった方へのケアをしています。一人でも多くの方々が口から食べる喜び・楽しみを分かち合えるよう日々奮闘しています。介助者の工夫や対応で美味しく上手に食べ続けることができます。それを患者さま、ご家族、スタッフへお伝えできるといいなと思います。

がん化学療法看護認定看護師

高橋 尚子



がん化学療法認定看護師は、がん化学療法を受ける患者と家族を支え、安全を守っていく事を役割としています。治療の意思決定や抗がん剤の投与管理、個別的な症状マネジメント、患者教育などを行っていきます。患者様の立場に立った看護を提供できるよう、日々努力していきたいと思っております。

緩和ケア認定看護師

田中 香織



緩和ケアは生命を脅かす疾患をもつ患者さんやご家族がその人らしく生きられるように、いのちに寄り添うケアを行います。からだだけでなく心のつらさや生活する上で生じるさまざまな苦しみに焦点をあて、それを少しでも和らげ穏やかに過ごせるように患者さんとご家族と一緒に頑張っています。

看護部



看護部では、『患者さんに満足していただける看護を提供する』『職員がやりがいを持って安心して働きつづけられる』を目指して、看護サービスの質改善、ワーク・ライフ・バランスの推進等の活動に取り組んでいます。時々看護部にも立ち寄ってください。お待ちしております。

外来

一般外来、脳神経センターを含め16の診療科があります。一般の診療部門や放射線治療などの治療部門もあります。患者さんに安全で安心して検査・治療を受けていただけるように日々笑顔で頑張っています。



放射線治療受付



SCU

宮崎県初で唯一の脳卒中ケアユニット（SCU）です。脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の患者さんが1日でも早く良くなって退院できるように専門医、セラピスト、薬剤師と連携し、チーム医療を頑張ってます！





ICU

ICUは、生体の重要臓器の急性機能不全に対する治療や手術後の全身管理を行う中央診療部門です。看護師20名と集中治療専門医・診療科医師等と協力し、重点的に手厚い治療・看護を行っています。又、研究にも取り組んでおり全国学会で発表もしています。

救急外来



救急外来では、365日患者さんの受け入れを行っています。救急車で来院される方が大半ですので、迅速な診察と看護判断が必要となります。医師と看護師、二人三脚で対応しています。



手術室・中央材料室

手術室では、外科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、ペインクリニックの手術が月平均140件程行われています。安心・安全な手術が提供できるよう、手術看護の質向上に努めています。

中央材料室では、院内で試用するすべての器材の洗浄・滅菌と診療材料の管理業務を担っています。



内視鏡室



消化器内視鏡検査と消化器内視鏡治療の介助と看護を行っています。安心して検査、処置を受けていただけるような環境づくりに配慮しながら頑張っています。経験を積んで内視鏡技師の免許を取得することができます。



N3F病棟

● N3F病棟は外科・消化器科の
● 50床です。日々忙しく過ぎ
● ていきますが、患者様の心に
● 寄り添う看護を目指し、笑顔
● を欠かさないように、がん
● ばっています。



N4F病棟

● N4Fは、地域包括ケア病棟、
● 52床です。看護師23名、看護
● 補助者10名です。住み慣れた
● 地域へ戻るために退院支援を
● 他職種と協働して患者・家族
● のサポートを行っています。



N5F病棟

● 脳神経外科・神経内科・ペイ
● ンクリニック科からなる病床
● 数52床の急性期病棟です
● 看護師31名 看護補助者
● 12名で早期回復に向け看
● 護を提供しています。



N6F病棟



● N6F病棟は内科・糖代謝内科・神
● 経内科・脳外科・整形外科・泌尿器科
● 外科・ペインクリニックからなる混合
● 病棟50床（特別室12床 一般病棟
● 38床）です。 看護師34名・看護
● 補助者7名で急性期から終末期までの
● 看護を提供しています。

回復期リハビリテーション病棟



S3F病棟



S4F病棟



S5F病棟



リハビリテーションセンターでは、ゆったりとしたスペースで、充実した訓練機材を備えています。365日訓練を行っています。

回復期リハビリテーション病棟では、脳血管疾患や骨折、廃用症候群を有する方々に対して、機能障害の改善や社会復帰を目的としたリハビリテーションを医師・看護師・リハビリテーション療法士・医療ソーシャルワーカー等とチーム医療の中で在宅復帰に向けて支援を行っています。家族指導として介護教室の開催も行っています。病棟では、多職種と協働し、楽しい入院生活を送れるようアクティビティ活動やクリスマス・七夕等の季節の行事を行っています。教育活動としては、認知症の勉強会等を定期的で開催し、日々のリハビリテーション看護に役立てています。



S2F病棟



S6F病棟

47床の医療療養病棟です。一般病棟において集中的な治療やリハビリテーションが行われた後も、医療依存度の高い方に対し医療療養病棟において継続した看護を提供しています。長期の療養生活を送る方も多く、四季の行事や飾りつけ、お誕生会等を行い生活感を味わっていただけるよう工夫しています。

緩和ケア病棟が開設され4年目を迎えました。24の部屋はすべて個室で、患者さんやご家族が我が家のように過ごせる場が提供できるように努めています。入院患者さんは、がんによる痛みやつらい症状があり、そのさまざまな苦痛を和らげ、患者さんやご家族がその人らしい生活をおくることが出来る様に支えていく病棟です。

看護部で取り組んでいる3つのこと

☆その1

フィッシュ！哲学の考え方を取り入れてます

「フィッシュ哲学」とは、アメリカ西海岸に実在する魚市場から広まりました。従業員達の士気が低く、倒産寸前の魚市場でしたが、そこで働く人々が「仕事を楽しむ(遊び心を持つ)」、「相手を喜ばせる」、「態度を選ぶ」、「関心を向ける(仕事や相手に)」という四つのマインドを持って仕事を行ったところ、文字通り“ピチピチ”と活きのいい職場に生まれ変わったのです。今では世界の多くの企業や医療・福祉施設で取り入れられています。

《フィッシュ活動の一部をご紹介します》

1. 遊ぶ (Play)

楽しみながらやる仕事ははかどる

熱烈歓迎 ウェルカムボード



ウェルカムボードでの部署紹介



各病棟心を込めて飾り付け

時には患者様と一緒に作品をつくります。

2. 人を喜ばせる (Make Their Day)

患者さんやスタッフのことを考えて行動しよう



3. 注意を向ける (Be There)

あなたを必要としている瞬間を見逃さないよう、気配りをしよう



新入職者とのご対面
ポートフォリオによる自己紹介の後、サクスカードを交換しています。



4. 態度を選ぶ (Choose Your Affitude)

ポジティブな姿勢で出勤しましょう。



☆その2

看護方式はPNSを導入しています

このシステムは、パートナーシップ・ナーシング・システムといい、対等なパートナー同士が2人1組で複数の患者さんを受け持ち、その成果と責任を共有する看護方式です。福井大学医学部附属病院で開発されました。

その特徴は

- ◆ 新人もベテランも共に成長する
- ◆ 2人で担当するので、患者さんも安心
- ◆ 業務の効率化に繋がり、時間外の業務が少なくなる
- ◆ 新人や途中入職者も、常に相談相手がいるので、職場に早く慣れる



成功のカギは“パートナーシップマインド”

- ・相手を価値のある、尊いものとして大切に扱うこと
- ・信じて頼りにすること
- ・周りの状況をよくみて思いを巡らすこと(慮る)



潤和会記念病院における PNS導入の目的

1.職員一人ひとりの良さを引き出し、足りない部分を補完し合うことで、患者さんに安全で満足していただける看護を提供する

2.コミュニケーションを円滑にし、活気あふれる職場にする

3.効率的に業務を行い、時間外勤務を削減し、仕事もプライベートも充実する

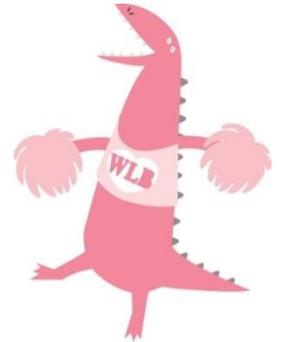
COVID-19対応に向けて、
ガウンテクニック研修を個別に
実施しています！！



☆その3

WLB ワーク・ライフ・バランスを推進しています

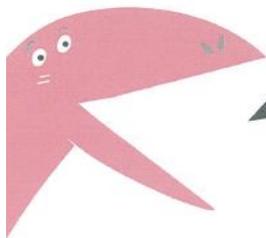
私たちは、日本看護協会が実施する「看護職のワーク・ライフ・バランス推進事業」に平成25年から3年間参加し、今年度、日本看護協会よりカンゴザウルス賞をいただきました。



活動内容は

- ・WLB通信の発行
- ・ママクラブ、シニアクラブ
- ・職員満足度調査
- ・多様な勤務形態の導入 などなど

それぞれの生活を尊重した
お互いさま意識
のある環境・風土



Be Happy!

幸せの連鎖は、
看護職の
WLB 実現から
始まります。

ワーク・ライフ・バランス(WLB)とは、
個人それぞれのバランスで、仕事と生活の両立を
無理なく実現できる状態のことです。
仕事と生活を調和させることで、両者間に好ましい
相乗効果を高めようという考え方で
その取り組みをさします。

